

2科で共同治療を行った上顎骨歯原性粘液線維腫の1症例

佐藤 賢一¹⁾ 瀬戸 美夏¹⁾ 喜久田利弘¹⁾
山野 貴史²⁾ 坂田 俊文²⁾ 中川 尚志²⁾
中山 吉福³⁾ 高野 浩一⁴⁾

- 1) 福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座
- 2) 福岡大学医学部医学科耳鼻咽喉科学講座
- 3) 福岡大学医学部医学科病理学教室
- 4) 福岡大学医学部医学科放射線医学講座

要旨：顎骨に発生する粘液線維腫は比較的稀である。好発部位は下顎臼歯部であるが、今回、上顎洞内に孤立性に存在した歯牙様硬組織を伴う歯原性粘液線維腫の1例を経験した。当初、歯科と耳鼻科の開業医院にて同時期に病変を指摘されたため、患者と両親は最良の医療を受けるためにはどの科で診療を受けるべきか悩むことになったが、保護者の判断により両科を有する当院を受診することとなった。術前の画像診断では上顎洞から鼻腔側壁に及ぶ歯原性腫瘍が疑われ、歯科口腔外科と耳鼻咽喉科の共同で治療を行った。本症例において、根治的治療だけでなく、患者本人と家族の精神的ケアを行うこともでき、患者中心の良い治療を提供することができたと考えられる。臨床的に確定診断が困難な症例では、関連する複数の専門医が合同で診断・治療を行うことで患者へより良い医療を提供し、満足感を与えることができると考えられた。

キーワード：歯原性粘液線維腫，上顎骨腫瘍，共同診療の重要性